

**目的**：だんらん空間のあり方に関する研究の一環として、本研究では、戸建住宅を対象として調査を行い、主婦の意識や家族の生活時間・行為が、だんらんの実態にどのように影響しているかを検討している。第1報<sup>1)</sup>では、主婦のだんらんに対する考え方やその空間の実態について、第2報<sup>2)</sup>では、生活行為表から見ただんらんの実態について報告した。本報では、生活時間・行為の面から見ただんらんの実態について分析し、既に報告した集合住宅の場合との比較を行った。

**方法**：前報と同様。すなわち、奈良県下の戸建住宅を対象とし、主な内容は、1) 生活に対する意識及び実態、2) だんらんに対する意識及び実態、3) だんらん空間に対する意識及び実態、4) だんらん空間の雰囲気の主観的評価である。

**結果**：第2報と同様、生活行為表により、だんらんの実態について分析を行ったところ、取り上げた<L空間><D空間><LD空間><LDK空間><L-隣室空間>の全てにおいて、集合住宅の方がそろいやすい傾向にある。そして、集合住宅の方が、意識上のだんらん時間や夕食にそろう頻度、世帯主の帰宅時間等と相関が見られる割合が高かった。これらは、戸建住宅と集合住宅の広さや平面プランの違い、隣室の持つ意味の違い等によるものであると考えられる。その他、行為等による比較検討も行った。

- 1) 太田他 “だんらん空間のあり方に関する調査研究（第1報）”  
(社)日本家政学会関西支部第1回研究発表会 1984年5月 兵庫
- 2) 太田他 “だんらん空間のあり方に関する研究（第2報）”
- 3) 國嶋他 “主婦の生活意識とだんらん空間のあり方に関する研究（第2報）”  
2), 3)とも (社)日本家政学会第36年会次大会 1984年9月 東京